



令和元年度 琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォーム会議の開催結果について

令和2年3月1日

本部事務局

琵琶湖・淀川流域におけるプラスチックごみの効果的な発生抑制につなげるため、琵琶湖・淀川流域海ごみ抑制プラットフォームを令和元年6月に設立しました。

本年度についてはプラットフォーム会議を4回に渡って開催し、意見交換や情報の共有を行いました。

参加団体 関西広域連合構成府県市、PET ボトルリサイクル推進協議会、
(一社)全国清涼飲料連合会、(一社)日本フランチャイズチェーン協会、
日本チェーンストア協会関西支部、豊中市、環境省近畿地方環境事務所、
消費者庁

第1回会議(海洋プラスチックごみから考える SDGsシンポジウム) 令和元年6月11日(火)

開催趣旨:各団体の環境活動に関する意見交換や情報発信など

主なプログラム:プラットフォーム立ち上げ宣言(関西広域連合)

海ごみ対策における国の動き(環境省近畿地方環境事務所)

パネルディスカッション(全国清涼飲料連合会・日本フランチャイズチェーン協会

・日本チェーンストア協会関西支部・豊中市)

〈主な意見交換内容〉

- バイオプラスチックで作られたペットボトルについては、現行のペットボトル等とあわせてリサイクルはできないが、今後技術が進歩すれば可能性はある。
- その他、環境省が発表したレジ袋有料化までの道筋への不安やプラットフォームへの期待、プラスチックごみに対する消費者の意識向上に資する啓発の必要性について意見があった。

第2回会議 令和元年9月11日(水)

テーマ:ペットボトルの先進的なリサイクルの取組について

話題提供:地域・事業者との連携による新たなペットボトル回収・リサイクルシステムについて(大阪市)

「セブンイレブン店舗等におけるペットボトル回収機設置の取組」などリサイクルの取組について(日本フランチャイズチェーン協会)

〈主な意見交換内容〉

- 新たなリサイクルシステムに取組む事により、ペットボトルからペットボトルへとリサイクルが行える事業者は、現在関西圏には存在していないが、事業者の関西進出を促

すなどの効果も期待できるのではないかと。

- ペットボトル回収機設置の取組は、現在は関東圏を中心に取り組んでいるが、実施地域の拡大も考えており、収集運搬など、スキームの一部について協力いただける自治体があれば、関西でも一緒に取り組みたい。

第3回会議 令和元年 12 月 25 日(水)

テ ー マ: 令和2年度のプラスチックごみ対策の取組予定について

話題提供: 令和2年度のプラスチックごみ等に対する事業予算案について(関西広域連合・環境省)

〈主な情報共有内容〉

- 関西広域連合では、プラスチックごみの削減に向けた総合的な取組の推進について検討を行う。
- 国は「G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組」を着実に実施しつつ、国際的な対策オプションについて、日本から積極的な提案を行っていく。
- 家庭ごみの組成調査や琵琶湖の湖底の現状についても情報共有を行った。

第4回会議 令和2年2月4日(火)

テ ー マ: 消費者教育の取組や各構成団体の令和2年度の取組について

話題提供: エシカル消費の取組等について(消費者庁)

プラスチックごみを対象とした次年度の取組予定等について(各構成団体・関西広域連合)
など

〈主な意見交換内容〉

- 大阪府や豊中市などでは、マイボトルの普及に関して、給水メーカー等と連携した取組を進めており、次年度も引き続き消費者の意識啓発やワンウェイプラスチックの削減の取組を進めていく。
- PET ボトルリサイクル推進協議会や全国清涼飲料連合会では、ペットボトルのリサイクルを推進しており、行政の協力や共同が不可欠な場面もあることから、事業者団体の取組に協力をお願いしたい。
- 和歌山県では県下全域を対象に、ごみの散乱防止条例を制定される予定と聞いており、事業者団体としては注目している。今後もプラットフォーム会議の中で、ポイ捨て対策についての議論も引き続き進めていただきたい。
- 今後は環境の視点に加え、観光・農業・産業など分野横断的に意見交換を進め、また海ごみにこだわらず、「プラスチック対策」として幅広く意見交換を進める。